



アフガン ニュース

2012年4月



アフガニスタンに技術革新の新風

国内教育施設の拡充 急ピッチで進む

今年度就学児童数
840万人を突破

アフガン個人発明家
国産初となる航空機制作

アフガニスタン大使館のSNSはこちらから。

Twitter @AfgEmbTokyo / Facebook www.facebook.com/afghanembassyjp



アフガニスタン大使館ポッドキャスト





2012年 4月



アフガン ニュース

最新のニュース

数字で見る アフガニスタン

テレビチャンネル
：75チャンネル

ラジオ局：160局

携帯電話普及台
数：1500万台

インターネット利
用者数：150万

インターネット関
連企業：40社



今夏の東京会議に向け、アフガニスタン国内で協議会開催

4月14日、今夏の東京会議に向けた協議会が、アフガニスタンの市民団体代表者を招いてアフガニスタン財務省で行われた。この協議会には財務省のハズラト・オマル・ザヒルワル氏、政策省次官のシャフィーク・アフマド・カリザダ氏らをはじめその他の省庁関係者も参加し、市民団体の各代表者らとともに東京会議に向けた話し合いを行った。東京会議ではアフガニスタンをめぐる国際協力関係のあり方が官民双方の観点から議論されることになっており、特にインフラ分野と経済分野の発展が焦点となっている。

就学児童数が840万人を超える カブール工科大が大学院学生受入開始

新年度が始まり、アフガニスタンでも多くの児童が新たに学校に通い始めた。今年度の就学児童数は計840万人にのぼる。そのうち39%を女子生徒が占めており、就学する女子生徒の数としては過去最高となった。多くのアフガニスタン児童が学習を始めるこの機会に際し、カルザイ大統領はある学校を訪れ、セレモニーの中で始業ベルを鳴らし、生徒および教育関係者に対し激励の言葉を述べ

(Continued on page 2)

今号のコンテンツ

最新のニュース Pg.1-4



た。教育省のファルク・ワルダク大臣も同様にコメントを残した。

首都カブールでは、各大学が新入生を迎え、多くの学生が大学生活をスタートさせた。カブール工科大学も900名にのぼる男女の新入生を迎え、大学の学生総数は3000人（うち女性7%）に達した。カブール工科大学は建築学、地質学、工学資源学、電子工学、コンピュータエンジニアリング、化学の分野で非常に優れた教育プログラムを提供している大学として、国内で高い評価を得ている。当大学では今年度から大学院修士課程コースが学生受け入れを再開しており、アフガニスタン国内の研究拠点、高等教育の新たな担い手として強く期待されている。

その他の教育にかかわるニュースとして、ナンガハール州ロダト地区にて、5ヶ月の建設期間を経て、4つの教室と研究実験室を備えた農業高校が新規開校した。地域に農業技術の専門知識を持った人材を輩出することが期待されている。その他、パルヴァーン州ジャバルサラジュ地区では、22教室を備える高等学校の建設工事が着工、15ヶ月を目途に完成する予定である。

高等平和評議会の議長にサラフディーン・ラッパーニー氏が就任

アフガニスタン高等平和評議会の

議長選任をめぐる討議の結果、サラフディーン・ラッパーニー氏が満場一致の信任を得、議長に就任した。選任会議にはカルザイ大統領、マルシャル・ファヒム副大統領、アター・モハンマド・ヌール州知事のほか、当評議会のメンバーが参加した。新たに就任したラッパーニー氏は、2011年9月に逝去したブルハヌディーン・ラッパーニー元当議会議長が推し進めてきた平和構築をしっかりと引き継ぎ、後継者として恥じない役割を果たすつもりであると語った。



(写真・上：ブリュッセルで開催されたNATO国際治安支援部隊に関する閣僚級会議で演説するザルマイ・ラッソウル外務大臣)

**ファティミ大使、園遊会に出席
両陛下、政府諸閣僚と意見交換**

4月19日、赤坂御苑で催された園遊会にファティミ大使も参加、

天皇皇后両陛下をはじめ、各皇室方と会話の場を持った。園遊会には在邦外交関係者、各要人が参席し、両陛下と自らの代表する国の強い結びつきを確認した。

この大変名誉ある会に参加したファティミ大使は、両陛下、皇太子殿下、各皇室方に向け、これまで弛みなく継続されてきた日本のアフガニスタン支援について、日本国民の善意の表れであるとし、深い感謝の意を伝え、両国関係が更に良好なものとなるよう最善を尽くしていくと語った。

その後、大使は野田首相、菅前首相、枝野経産相、玄葉外相など、政府要人とも面会、友好的なムードの中で有意義な意見交換を行った。特に玄葉外相との話し合いは双方にとって非常に意義深いものとなった。(写真・下)

**ファティミ大使、緒方貞子氏の
これまでの活躍を顕彰**

4月10日、緒方貞子JICA（国際協力機構）前理事長によって主導されてきたアフガニスタン支援活動を称えるため、盛大なランチ・レセプションが当大使館で催された。ファティミ大使をはじめとする外交官、大使館員も同会に参加し、緒方貞子氏のこれまでの活躍と、同分野における卓越した功績





を称えた。

国際開発支援、人権活動、平和構築の第一人者として世界的に高く評価されている緒方貞子氏は、先日JICA理事長の職を辞任。緒方貞子氏のこれまでの活動を称えるため、日本政府、在邦する外交関係各団体、NGO、民間など各界からも著名人が来館し、これまでに達成されたアフガニスタンの復興発展を確認するとともに、今後の展望について前向きに語り合った。

レセプションには、福田康夫元内閣総理大臣、浜田和幸外務大臣政務官、田中明彦JICA新理事長のほか、衆議院から阪口直人議員、中林美恵子議員、大泉ひろこ議員、松岡広隆議員、森山浩行議員、浜本宏議員、参議院からは米長晴信議員が参席するなど、多くの要人が来訪し、大変盛況な席となった。(写真・上)

カーピーサー州 地域振興プロジェクトが完了

カーピーサー州で行われていた2つの公共事業支援プロジェクトが完了、成果物がそれぞれの地域に引き渡された。同州ジャマラガー地方では全長140mの橋が落成。この橋の完成により、地域住民の近隣の市場などへのアクセス

が容易となった。サイエド・ヘル地区とヘス・エ・ドワム地区の住民計7万人余りが主な利用者となる見込み。一方、アルビルーニー大学では新たにコミュニティセンターが完成、大学の学生や近隣の住民が知的好奇心を満たし、集うことのできる「サロン」としての役割が期待されている。

バーミヤン州 農家支援プログラム立ち上げ

4月1日、バーミヤンの農業法人40社、5万人の農業従事者を対象に、農業支援プログラムが施行された。対象者に向け、トラクターなどの農業機械設備の供給、高品質な小麦の種およびじゃがいもの種イモの配布、家畜取引に関する指導、農業経営アドバイスなどのサービスが提供される。その他、地元獣医クリニックの支援、動物看護師の教育指導、ポテト包装工場の設備強化、放

牧農地の改善なども予定されており、当プログラムが担うサービスの範囲は極めて多様なものとなる見込み。

当支援プログラムを通じ、地元農家が十分な世帯収入を得ることができるようになるだけでなく、より大規模な農業ビジネスへと乗り出すことが期待されている。この農業支援プログラムに関し、農業灌漑牧畜省は、ニュージーランド支援プログラム、ニュージーランド地域復興チーム、英国国際開発庁、米国開発庁によるサポートを受ける予定である。

ヘラート州で大幅な経済成長

ヘラート州の2011年度の輸出高が前年比で36%増進していることが、州政府の報告から明らかになった。好況の理由として、新関税規制の施行、地方商工会議所の機能向上、国外取引先との連帯強化、継続的な治安の向上などが挙げられている。地元の貿易業者の声を聞くと、以前と比較してビジネス環境は着実に好転しているとのこと。

州関税局長のアムルッラー・カランダルゾイ氏は、2011年度前半期の輸出高は3000万米ドルを突破したと発表、堅調なビジネス成長に高い評価を示した。ヘラート州は特産品のサフランのほか、カーペット、クミン、大理石、皮革製品、羊毛の生産が豊富であり、輸出先は隣国のイラン、トルクメニスタンをはじめ、中東各国、インド、トルコ、ヨーロッパ全域など幅広い。



近年、アフガニスタン西部においてカーペット生産が再び盛んになってきており、当該地域では現在少なくとも3000人がカーペット生産事業に従事している。そのほとんどは女性であり、カーペット産業は、女性の社会進出が進むアフガニスタンにおいて、雇用の受け皿として重要な地位を担っている。ヘラート州ではカーペット以外の産業も好調であり、更なる市場の成長が期待される。

パクティカ州の歳入増 前年比25%を超える

現地の行政機関が伝えるところによると、アフガニスタン南東部パクティカ州の歳入が前年同期比で約27%増加し、この数字は税金の回収が進むに連れさらに増えると考えられている。法人税、銀行税、通行料、運送手数料などが歳入の大部分を占めているという。歳入増加の理由として、治安の向上、効率的な地方行政の存在、発展援助プログラムによる長期的な支援などが挙げられている。



国内外の25業者に 金鉱床、銅鉱床の採掘認可

アフガニスタン国内での金属採掘事業認可を申請していたアフガニスタン、アメリカ、カナダ、イングランド、UAE、トルコ、オーストラリアの計41業者のうち、25業者が採掘許可及び採掘権を獲得した。一定の評価期間を経たのち、政府当局から正式に認可が下りたとのこと。鉱床は国内各地に点在しており、今回のケースではガズニ州ザルカシャーンの金鉱床

および銅鉱床、バダフジャン州の金鉱床、ヘラート州シェダイの金鉱床が対象となった。すでに採掘準備が開始されている。

アフガニスタン衛星打ち上げへ テレビ放送「地デジ化」への期待も

アミール・ザイ・サンギン通信情報省大臣によると、今後6カ月以内を目途に人工衛星の打ち上げが行われる見込み。成功すればアフガニスタン初の国有人工衛星となる。これにより、アフガニスタン国内のテレビ、ラジオ放送に大きな変化がもたらされると考えられている。現行ではアナログ方式で放送されている国内テレビのデジタル化も期待される。

2001年以降、情報通信に関わる技術発展、普及を着実に推し進めてきたアフガニスタンであるが、現在では国内に75局のテレビ局、160局のラジオ放送局を擁し、携帯電話の所有台数も国内総計で1500万台を突破するなど、近年のメディア、IT分野での発展は特に著しい。衛星打ち上げの成功により、この流れが更に加速するものと考えられる。目下衛星の打ち上げ委託組織が検討に付されている。

また、メディアに関わるニュースとして、ジャーナリズムおよびメディア技術の専門学校であるナイ・メディア学院が、オーストラリアの研修会社AMTによる援助の下、アフガニスタン国内で開校準備中である。同校の学生は2年間の課程を通じ、ラジオ、テレビ、またその他の新しいメディアに関する知識、技能を習得することができる。

アフガニスタン人発明家 国内初の「国産飛行機」制作 将来の航空技術の礎石として期待

ガズニ州の「発明家」サビール・シャーは、3年間の奮闘の末、アフガニスタン国産としては初となる航空機を完成させた。この超軽量エアクラフトは、サビール氏が地元の市場で材料になりそうなものを買集めて組み立て、トヨタ車のエンジンを動力機関として転用し、自作のプロペラを取り付け、時にインターネットの情報を参照しながら作り上げたもので、設計から完成まですべてアフガニスタンで行われた初めての航空機として注目を浴びている。

このプロジェクトは個人発明家によるものではあるものの、アブドゥル・カリム副大統領が1000米ドルの開発資金援助し、また、防衛省がカブール北部の飛行場を飛行試験場として貸し出し、技術アドバイスを与えるなど、各方面からの支援も成功を後押しした。



制作されたエアクラフトは全4回のテスト飛行を通じ、最長で4分の1マイル(500m前後)の飛行に成功したとのこと。サビール氏は、自らのこの試みがアフガニスタンの航空業界に対する民間レベルでの投資を呼び起こすきっかけとなり、アフガニスタン国内で航空機製作事業の機運が高まることになれば嬉しいと話し、また、自身の将来的な希望として、8席から10席程度を定員とする小規模旅客機の開発を成功させ、海外留学を果たすことを望んでいると語った。

ラグビーのアフガニスタン代表初の国際公開試合に参加

ラグビーの代表的国際試合であるHSBCアジア五カ国対抗杯2012に先駆け、ドバイで行われた公開試合にアフガニスタン代表が出場、UAEチームを相手に熱い試合を繰り広げた。



アフガニスタンラグビー連盟のアブドゥル・ハリール・ベグ氏は、この国際試合出場について、アフガニスタンラグビー史における大きな一歩であり、若い選手を刺激する良い機会となったと高く評価した。

空手の国際大会でアフガニスタン代表チームが計6メダル獲得

4月5日から8日にかけてデンマークで行われた芦原空手の国際大会で、アフガニスタン代表チームが銀3つ、銅3つの計6メダルを獲得した。チーム順位としても11ヶ国中4位の好成績を残した。銀メダルはヤヘヤ・アフマディ、アブドゥル・ラフマン・イザミ、ワヒドゥラー・ジョヤ、銅メダルはシャフラム・ハラシ、ファリード・アカ・ドール・アンディシュ、シール・モハンマドの各選手に贈られた。

カブールでスポーツイベント開催



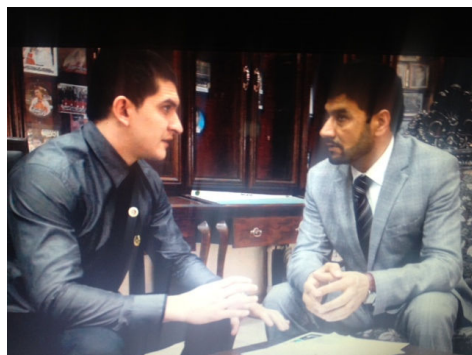
4月上旬、駐日アフガニスタン大使館とも親交のあるエフゲニー・ラティポフ氏の手によりカブールで「スポーツフェスティバル」が開催、好評のうちに終幕した。

今回の「スポーツフェスティバル」ではボディビルのみならず、サッカー、そしてチェスも取り上げられた。

当イベントについてオリンピック委員会の公認を得るため、ラティポフ氏はイベント前に在アフガニスタンオリンピック委員会のモハンマド・ザヒール・アグバル理事長と

面会。後日オリンピック委員会事務所を通じ、正式に公認を得た。

世界フィットネス連盟(WFF)、世界ボディビルディング連盟(WBBF)でも活躍するラティポフ氏は、今回のイベントの成功により、アグバル理事長から「アフガニスタン平和・発展貢献奨励賞」を授与された。ラティポフ氏は来年も同イベントを開催する予定であり、次回開催時は「女子の部」の創設も視野に入れているという。



NEWEST PODCAST, please click:

http://www.youtube.com/watch?v=XNii3gx5pxY&context=C456efa2ADvjVQa1PpcFMzKyDd8oTu0EDgXhRN0GKRh_YQhk5www.youtube.com



106-0041 東京都港区麻布台2-2-1
在日本国アフガニスタン大使館

電話・ファックス
Tel: 03-5574-7611
Fax: 03-5574-0195

ウェブサイト



Contact Us

当大使館のニュースレターに関するご意見、ご質問等ございましたら、大使館広報部 Jason Pratt宛に電子メールにてご連絡下さい。

pratt@afghanembassyjp.org